

磐城時報

十日九日
編輯 磐城時報編輯部
印刷 磐城時報印刷部
發行 磐城時報發行部
電話 磐城時報電話部
地址 磐城時報印刷部
電話 磐城時報電話部
電話 磐城時報電話部
電話 磐城時報電話部

花爛漫の平町で 四千名の消防検閲

中村警察部長來平し 優良組員を表彰

平警察署管内四町十八ヶ村の聯合消防検閲は二十日執行されるが、當日は午前七時半平警察署前から本町通り一丁目から五丁目迄先着順に整列し午前八時中村警察部長が人員並に服装の検閲をなし終つて八幡小路グラウンドに至り規律訓練、ポンプ操等を行ひ、次いで

平、内郷、湯本、磐崎、小名濱、玉川、三阪、澤渡、箕輪の各組に金馬籠を授與し火災功勞者並に優良組員を表彰し猪狩署長、中村警察部長、來賓、受賞者總代の訓示、祝辭、答辭等あり午後一時頃散會の豫定である。表彰される優良組員如左。

▲(平)小頭酒井清、同關内正一、伍長金成泉一郎、消防手宗像國治、同正木廣造、同棟木正喜▲(内郷)小頭遠藤藤一、伍長鈴木留次郎、同鈴木文藏、同草野宗忠、消防手草野喜一郎、同山崎喜徳、同齋藤福王九、遠藤明治▲(湯本)消防手平井京藏、同菅原隼人、同鯨岡又男、同薄羽勘重、同坂本福彌、同松本正夫、同久保木英雄▲(磐崎)小頭白石政一、同伍長大田原悟一、同木田周平、同消防手小泉忠、同伍長桑谷文平、同消防手小泉恭平

特に表彰される 二名の火災功勞者

平署管内聯合消防検閲當日火災をり且技術の点にも近來長足の功勞者として表彰される人は鹿進歩を來してゐるなど一方郡農協島村消防新妻一行、同村鈴木會及養蠶同業組合が頻りに桑園學校の授業料納附成績は極めて主催で十九日午前十一時から植田町小學校に開催したが屋旅館で懇親會を開いたが出席者六十名盛會を極めた。

送電契約 植電より供給

入山礦へ
湯本町入山炭礦では最近事業の擴張に伴ひ從來二本松電氣及日立電氣より電力の供給を受けてつたが不足を來してをり豫てより植田水力電氣會社と送電契約交渉中とのところこの程漸く成立するに至つたので植電會社では總會の承認を求むべく昨十日臨時株主總會を開き契約締結の承認を求め工事着手する事になつた。

花時に跋扈する 不良少年を取締る 四十五錢を脅迫して 槍玉に上つた助手

平町大勝自動車部助手鈴木利吉六名は昭和三年四月から四年三月まで一ヶ年間滞納して、なほ長橋町で活動寫真見物中の歸り客内郷村大字御所下駄職猪狩一局でも整理に手を焼いてゐるが、この滞納者の間には全く家庭の生活難からやむを得ず滞納して三時から松ヶ岡公園で催す等兩名が謝罪したのを聞かすその際中四十五錢を強奪した事發に因らず本當の横着から滞納し聚樂館に變更し美妓の手踊等あり花時に當つて不良少年が跋扈するので嚴重な取締りを行ふ方針である。

觀櫻會

平消防組の觀櫻會は十八日午後三時から松ヶ岡公園で催す等兩名が謝罪したのを聞かすその際中四十五錢を強奪した事發に因らず本當の横着から滞納し聚樂館に變更し美妓の手踊等あり花時に當つて不良少年が跋扈するので嚴重な取締りを行ふ方針である。

電気協會の總會 けふ植田町に開催

伊藤内務部長出席
昭和三年度中における平町各小福島縣電氣協會總會は濱通りの豫算、昭和二年度決算の後動議主催で十九日午前十一時から植田町小學校に開催したが屋旅館で懇親會を開いたが出席者六十名盛會を極めた。

國民の自覺

警城中學校長
(三) 唐土齊治
平等と云ふ事に就いても猫も杓子も同一に視ると云ふ事は矛盾も甚しいものでありまして、假令へば此處に胃病の人と健康な人とあつた場合、之れに中等なる食事を與へる事が果して平等となりませうか、決してそんなものではありませぬ。胃病の人には粥を與へ健康な人には普通飯を多量與へてこそ眞の平等となるのでありませぬ。即ち内容實質に伴ふ平等の分配と云ふ事を考へなければならぬのであります。以上判り切つた理窟に色々着色

し扮装させて、さも尤もらしく見せかけて居るのが現今の誤れる自由平等觀であるのであります。更今一つの思想の基調は經濟思想を出発点とするものであります。即彼れ等の曰く人の生活の根本となるものは道徳でもなく政治でもなく宗教哲學でもない經濟である。經濟問題から道徳政治宗教等一切の問題は生じて來るのである。然るに十九世紀以來物質文明が進歩するに隨つて生産組織が手工時代から機械工業に自資本主義から大資本主義に變化し其結果貧富の懸隔が著しくなつて貧乏人は一日働かざらば食ふだけの儲ける事が出来ないけれども金のあふものは遊んで居つても贅澤な暮らしをして居ると云ふ不合理な結果となつて居る。此貧富の懸隔から現在の社會の幾多の缺陷、弊害、矛盾、悲惨を生ずるのである。故に吾々の社會をより良い社會にし吾々の生活を幸福にする爲めには財産を私有する事は撤廢しなければならぬ。財産の如きは勞働して生活に必要なだけ供給して他は一切國家社會に供して共有保管すべきなりと主張してブルジョアの獨裁政治を主張するの第二の流弊であります。

貯金通帳を盗み 拂下げて捕はる

伊達郡小國村生れ無職原金太郎(一〇)は元上野驛構内の辨當賣をしてゐたが、盗癖あるため賣子をやめさせられ三月十四日好間村に來り知人の處に寄食してゐたが、十六日好間村大字北好間字推木平遠藤清方一家の不在中に忍び入り筆筒の上に置いてあつた貯金通帳を窃取し十七日午前十一時頃好間郵便局に至り遠藤の認印で拂ひ下げんとしたが拒絶された、ゆゑ鈴木孝次郎と稱し代人の形式で九圓五十錢を拂下げた事發覺十八日平署に捕はれた。

ハガキ集

◎本年の新川端電燈は暗い。不景氣風の御交際の故か五燭の燈力位ですが、武田君の禿の火がない故か、電氣會社の努力の足らざるか。

陽春漫言

武藤かなめ
御用

▲植田菊友會總會

植田町舊菊多校卒業生より成る菊友會春季總會は廿二日午後三時より植田町若松屋旅館に觀櫻を兼ねて開催の筈。

▲榎本氏送別會

報知新聞榎本紀一氏の送別會は十八日午後六時から尼子亭に開催したが出席者三十名盛會であつた。

平對常磐

野球試合

常磐銀行對オール平の野球戦は二十一日磐中グラウンドで舉行の筈であるがメンバー左の如し。

▼オール平軍
坂本士野坂岡 見田水波井
井鈴金小石鯨 清織清官國
(投捕同) (一) (二) (三) (遊左) (中右)

▼常磐軍

がる奴...がある。
さて...寄りつく鳥は。
美しい花、必ずしも蜜あるのではない、悪臭の花、必ずしも毒がない。己が身を宿すべき保護色を以て警戒色のいらみ...胡蝶は今眠りさめたり、舞や歌へや、姿やさしく

▼主 張
「どうです、牛乳代が集まりますか」
「え、まだ一月のがきまりません」
「支拂へがなげりや、配達停止しなさい」
「配達しなげりや、そんなじやう、尚ほ更拂はねえ、とくるから駄目です」
「...」
「...」
「...」
「...」

鳥御料理

柳子井川
仕出しは迅速配達致します
平町南町小館隣り
電話四二四番

魅 力

或年の秋、草枕を沿津にかりた事がある。
もてなして呉れた若い日本髪に女給に、総合的美を認めて感心するに充分だつたが、何かの拍子に黒き加減の足袋を見せられてうんざりしたことがある。
男の白足袋は御幣かつぎが坊主にきまつてゐるが、女の白足袋は魅力のあるものはないと思ふ、スカートと刺した純な爽やかさ、操の権化、否操そのもの、やうに思へる。襟元が良い、口元が良い等といふが、それは煽情的でいけない。

驚いた!!!

こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物

第三營業報告

(自昭和三年三月廿八日
至昭和四年三月廿八日)

資本金勘定	100,000.00
仕入先勘定	25,000.00
假受金勘定	1,000.00
商品切手	1,000.00
法定積立金	500.00
前期積立金	2,950.00
前期繰越	400.00
当期純益金	2,960.00
合 計	135,400.00

負債之部

未拂込資本金	25,000.00
什器	1,000.00
得意先勘定	1,000.00
金銀勘定	26,000.00
商品勘定	1,000.00
當座預金	400.00
振替預金	3,300.00
取立手形	101.00
諸貸付金	30,000.00
土地建物	2,000.00
滞貸金勘定	1,000.00
受取手形	1,000.00
合 計	115,400.00

昭和四年三月廿五日
株式会社百澤商店
取締役 百澤易興
社長 百澤易興

腸胃 毒校

内科 専門
腸胃科 専門
皮膚病 専門
院 醫科 (七〇一話電)

吉田眼科

平町紺屋町
電話六八番

貸家あり

住宅向き
商店向き
委細面談
中野勇吉

セメント

警城セメント株式會社
代理店 西村屋藥舖
平町一丁目
電話三三番

鎮咳液

セキの薬
法療
特約藥局
關内藥局
平町四丁目
電話四〇番

龍甲齋虎洲

浪界巨頭
開演期日
四月廿一日、廿二日、廿三日、廿四日、廿五日、廿六日、廿七日、廿八日、廿九日、三十日、三十一日
四倉町 四倉座
小名濱 磐城座
宮炭鑛 昭和館
湯本町 湯本座

藤沼醫院

内科 小兒科
入院應需
平町紺屋町
電話平五〇七番

スポン

滋養第一
強壯の効
ホツ定 價
ホツ定 價
ホツ定 價
店 理 代
角 目 丁 五 町 平
局 藥 邊 野 山